

日刊 動労千葉

84. 3. 6

No. 1581

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉の呼びかけによる「第四回 八〇年代をたたかう労組活動家懇談会」は、三月二六日、船橋商工会議所ホールに全国から六八の労組・団体、三一六名の闘う代表を集めて開かれました。集会は、鮮明な提起と熱心な討論を通じて、「敵しい情勢であればこそなおさら労働運動の原則を堅持して闘おう」「労働者が生きぬくためには、危機と凶暴化を深める帝国主義をうち倒さねばならない」「三里塚を闘う労働運動こそが勝利への道をきりひらく。この闘いを全国へ拡大しよう」「3・25三里塚へ全力で決起しよう」との基本方針を圧倒的に確認し、成功をかちとりました。この集會に寄せられた、全造船機械 石川島分会の佐藤芳委員長（元、中立労連議長）よりのメッセージ（全文）を紹介します。（『日刊』編集委員会）

ぜいぜいも勝ちとってほしい！ 3・25「五割動員」——ぼくらも共に たたくろ——

全造船機械 石川島分会 委員長 佐藤芳夫

闘う石播の仲間より
連帯と激励の
メッセージ

許すな、中曽根の「戦後総決算」攻撃

第四回「八〇年代をたたかう労組活動家懇談会」への参加呼びかけをいただき、心から嬉しく思います。しかし、誠に残念ですが、日程上、出席できません。従って、このメッセージをもって出席に代えることをお許し下さい。

危機と怯えをおし かくす「うす笑い」

いただいた「呼びかけ」文をよく読ませていただきました。ぼくが日常的に認識しておりました階級攻防戦の現局面について、あの呼びかけ文は、それをいいつくしているようです。

本当にほんと、支配階級は資本主義・帝国主義の深刻な「危機」をよく知っており、心ん中では大いにおびえているんですが、中曽根のあの「うす笑い」の表情に見られる如く、強気の軍事大國化による突破作戦を考え実行に移しているのです。

このおびえを、国際的には、レーガン、サッチャー、マルコス、チョン・ドファン、ナカソネの大小五悪人の「ファシスト連合」によって抑えようとしているし、内にあつては、第二臨調・行革攻撃。その狙いは、第一に軍事大

國化のために、（三里塚二期工事着工攻撃のための千葉県選出議員ソフトもこの重大な一環）、第二は、国家財政破綻のとりつくり、福祉切り捨て増税路線による人民収奪、第三に、国鉄労働運動・自治労つぶし、とりわけ、千葉動労のような階級的・戦闘的・戦闘的労働運動つぶしだと要約できるでしょう。

あらゆる手だてで 狙う支配強化と侵略

彼らは、国内支配体制の強化と、アジア侵略のため、考えられるあらゆる手だてを使っております。中曽根は、パッシングⅡ欧州配備を「断固支持す

今こそつくりかえよう、日本の労働運動

さて、問題なのは、日本労働運動です。

言うまでもなく「労働戦線統一」という名の右翼再編、機動隊に会場を守られて発足した「全民労協」（十一月二日の第二回総会は、労働大臣も出席、祝辞を述べた）は、体制延命の不可欠な要件、資本主義・帝国主義を支える

る」と言明したかと思えば、グレナダに対するアメリカの軍事侵略は「充分理解できる」といつてのけました。この侵略思想は、昨年来、中曽根が公人として靖国神社を参拝、建国記念日には、歴代首相の中で初めて祝金を贈ったのも同じものです。当然、「守るに値する国家体制」（防衛白書）を、現代の若者に教えこむべく「教育臨調」を提起しました。教科書には、愛国心の高揚を、自衛隊合憲論も併記せよ、福祉というのは自助努力によって実現するもんだ、日本兵の沖縄人民虐殺などあいまいだから削除せよ、東条英機も愛国者だ———というのです。昭和天皇記念公園の開園だって、重要な思想統合の一環だと思えます。

重要な柱です。

この現状を見ますと、一九三〇年代に生まれた産業報国連盟、一九四〇年に成立した大日本産業報国会の再現を思わせます。

今年の一、各組合で旗開きが行われ
（裏面へつづく）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ。

